

近畿大学大学院総合理工学研究科 学生会員 ○谷川 昌之

近畿大学理工学部 正 会 員 岡田 昌彰

1. 研究の背景と目的

明治 21 年に建てられた眺望閣は大阪市浪速区に位置し、その周りにできた露店が始まりとされている五階百貨店は形を変えて現存している。本研究では、五階百貨店及びその周辺地域の変遷を明らかにすることを目的とする。

2. 眺望閣の変遷

明治 20 年代に日本各地で楼閣が流行し、その先駆けとなったのが明治 21 年 7 月に大阪西成郡今宮村（現大阪市浪速区難波中 2 丁目）に整備された有宝地という園地内に建てられた高さ約 31m の眺望閣である。当時、都市の俯瞰は非常に珍しく、遠方からも多くの人々が訪れた。南海鉄道案内全（著宇田川文海、昭和 53 年発行）によれば、眺望閣からの俯瞰を妨げる建築物はなく、遠望が可能だったことがわかる。また、園地内には乗馬や写真、料理、大弓、楊弓、温泉、売店などがあったとされている。

眺望閣が完成した翌年の明治 22 年 4 月、大阪北野村車茶屋にも有楽園という遊園地ができ、眺望閣に対抗するように園地内に高さ約 39m の凌雲閣が竣工した。眺望閣、凌雲閣はそれぞれミナミの五階、キタの九階と呼ばれ、大阪南北のランドマークとして競合関係にあったが、老朽化によりそれぞれ明治 37 年、及び 38 年頃に取り壊されている。

3. 五階百貨店の変遷

有宝地内には呉服、小間物、家具、書籍、文具、玩具、菓子などを売る露店があり、その中でも古物を扱う店が多かった。日本橋五階百貨店で商売をしていた葛原氏が書き残した記録（以降、葛原記録とする）によると、高価な古物を求めて遠方から訪れる客も多く、眺望閣と共に露店は連日大変賑わっていたとされている。当時これらの露店は、眺望閣の通称である「五階」、及び日中に商売をする一方で夜間は閉店し閑散とすることから「五階昼店」などの呼称で呼ばれ、一躍“大阪名物”と化した。しかし明治 37 年頃、眺望閣が撤去されることになり、五階昼店の商人らは東関谷町 1 丁目から 2 丁目の地（現日本橋 4 丁目、5 丁目付近）に場所を移すことになる。さらに大正 8 年に決定された大阪市区改正設計により立ち退きを命じられてしまうが、当時地主であった泉岡氏が昭和 2 年に中 2 階の建物を五棟と露店の土地を商人に与えたことで、商売が継続されたことがわかった。当時の地図（図-2）によると中 2 階を五会百貨店、露店を五階百貨店または五階昼店に分かれていたことがわかる。葛原記録の記述を分析した結果、眺望閣が存在した明治 37 年頃までを「第 1 期黄金期」、解体後昭和 2～20 年頃までを「第 2 期黄金期」と位置づけられることがわかった。

昭和 20 年 3 月 13 日、B29 機による空襲により五階百貨店、五会百貨店は焦土と化し、多くの商人は疎開したが残った一部の商人で日本橋 4 丁目に昭和 21 年秋頃、「五階百貨店」の名で店舗を復活させたことがわかった。こ



図-1 昭和 30 年頃の五階百貨店



図-2 昭和初期の「五会(階)昼店」とその周辺地域の地図

れらは、焦土と化した地にゴザを敷き、高さ約 70cm の仕切りで囲った程度の店構えであり、商品自体も欠けた茶碗や片方だけの靴など状態の良い商品はほとんどなかった。その後徐々に五階百貨店に商人が集まるも昭和 30 年代に地権が泉岡氏から大南氏へ移り、店舗の一部は約 50m 南の泉岡氏・高橋氏の所有地へと移転し、「日本橋五階百貨店」の名称で新店舗建築が整備された。



図-3 現在の五階百貨店



図-4 五階百貨店の建物内

昭和 37 年には五階百貨店のバラックは取り壊され、新ビルへと建て替えられ、約 130 軒あった店舗は約 40 軒に減少した。新ビルの 2 階と 3 階は「五階ハウス」という名称のアパートとして現在も使用されていることが明らかになった。さらに昭和 40 年頃には大阪市による土地区画整理事業（いわゆる「軒切り」）によって五階百貨店周辺の道路は拡張される以前は、現在のビルの軒先まで店舗が立地していたことが本研究により明らかとなった。また、現在の五階百貨店には 2 店舗が入っているが、その床面にはバラック時代の通路と店の基礎部分が明確に認められ（図-4）、店同士が稠密していたことがわかった。

4. 五階百貨店周辺地域の変遷

現在の五階百貨店周辺地域には、「日本橋五階百貨店」、「日本橋商店会（旧新五階商店街）」、「五階本通商店会」の 3 名称が現存すること（図-5）が本研究により確認された。また、日本橋五階百貨店（図-6）は昭和 39 年に高橋氏が土地を手放し敷地面積、店舗数ともに半減したことがわかった。建物の外壁にはかつての看板の痕跡も確認された。現在の店舗区画は発足当時のままであり、1 軒 1 畳程度の区画（図-7）で 3 軒が営業している。



図-5 現在の五階百貨店周辺の商店会・商店街分布図

日本橋商店会は五階百貨店と日本橋五階百貨店の間に位置し、戦後五階百貨店の復興時に発足したとされている。発足時は新五階商店街と呼ばれていたが昭和 45 年頃に日本橋商店会へと改名され、バラックに代わり建造された中 2 階の建物の一部が現存している。また、ここでは土地区画整理事業が行われず幅員も発足当時のままであることがわかった。



図-6 現在の日本橋五階百貨店

五階百貨店が面する道路沿いにある一部の店には“五階”を冠した「五階本通商店会会員」の看板が確認できたが、商店会自体は存続していない。ヒアリング調査により、戦後“五階”を冠する商店会、商店街は数多く存在していたことがわかった。当該地においては“五階”という名称が深く根付いていることがわかる。

5. 結語

明治以降の繁栄と、眺望閣の解体及び戦災といった苦難を乗り越えて逞しく存続してきた遺存施設及び「五階」の呼称そのものは、それぞれ当地の近代史を明確に反映した有形・無形の貴重な価値遺産であると考えられる。



図-7 日本橋五階百貨店の店内